

バスキアに初めて会ってから
40年が経ち、彼の短い生涯が
私の想像の中でイエスの
『十字架の道』と重なる

ローランド・ハーゲンバーグ



1983 NY 仕事場にて



"Voice from the past", 2024, acrylic on board, 62x90cm, (c) Roland Hagenberg

ROLAND HAGENBERG

“Stations of Life” Paintings and photographs

2025. 9/12(Fri)~9/27(Sat) open 11:00~18:00 closed 9/16.22.24 入場無料

Gallery SUGATA 京都市中京区室町通二条下ル蛸薬師町 271-1 然花抄院内



SUGATA

主催 / IDEAKEI 協力 / Gallery SUGATA

後援 / 京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都新聞、一般社団法人 現代教育研究協会

オーストリア大使館、文化フォーラム、オーストリア文化フォーラム Austrian Embassy Tokyo





"Jean-Michel Basquiat, NY, 1983" (c) Roland Hagenberg
"Meeting Andy", 2024, acrylic on board, 62x90cm, (c) Roland Hagenberg

2025_9_12(Fri)–9_27(Sat) closed (9/16. 22. 24)

Reception: 9/12 (Fri) 17:30-19:30

Gallery SUGATA: 京都市中京区室町通二条下ル蛸薬師町 271-1 然花抄院内



Roland

この9月、京都にて、写真家・ジャーナリスト・詩人・ビジュアルアーティストとして30年以上にわたり日本で活動しているローランド・ハーゲンバーグが、1980年代のニューヨークで実際に知り合い、撮影も行ったアーティストに敬意を表する展覧会を開催します。

そのアーティストとは、ジャン＝ミシェル・バスキア(1960–1988)。ハイチとプエルトリコにルーツを持つ彼は、1970年代にグラフィティ・アーティストとして注目され、1980年代初頭には「ネオ・エクスプレッションイズム」と呼ばれるムーブメントの象徴的存在として国際的に知られるようになりました。

ハーゲンバーグは1983年から1992年までニューヨークに在住し、写真家としての活動と並行して、ダウントウンのアートシーンを記録する書籍の制作にも携わってきました。バスキアとは何度か会い、彼のアトリエや制作中、休息中の親密な瞬間を撮影しました。これらの貴重な写真は、近年、主要な展覧会や図録にもたびたび紹介されています。

ハーゲンバーグの新たな展覧会「Stations of Life: BASQUIAT X JESUS (ステーションズ・オブ・ライフ:バスキア×イエス)」は、京都で開催され、バスキアと1980年代初頭のアトリエを捉えた写真のほか、ハーゲンバーグ自身による絵画やドローイングも展示されます。それらの作品は、輪郭のあるフォルムや衝動的な色彩を特徴とする、バスキアの即興的な手法を想起させるスタイルで制作されています。

本展でハーゲンバーグは、基督教の「受難(パッション・オブ・クライスト)―イエスの死に至る一連の出来事―を枠組みに、バスキアの人生を象徴的に重ね合わせます。写真家・画家・詩人としての立場から、彼はこのシリーズを「ジャン＝ミシェル・バスキアの受難」と名付け、敬意と皮肉を込めて、アート界がバスキアの死後に彼を神格化し、その作品を商品化していった過程を探求します。27歳でヘロインの過剰摂取によりこの世を去ったバスキアは、彼の作品を高く評価した同じシステムの中でアイコンであり、また殉教者のような存在となったのです。

エドワード・M・ゴメス

美術ジャーナリスト、評論家、著者、キュレーター、『Raw Vision』『The New York Times』『Art in America』など国際的な出版物に多数寄稿。アウトサイダー・アートに特化した雑誌「brutjournal」を創設。



Works from the 1980s
in New York
ROLAND HAGENBERG

【写真、文<英語/日本語訳>】



IDEAKEI

